

いずみさの昔と今 第372回

九条家の中世①

「日根荘」を所領とした九条家は摂関家のひとつでした。摂関家とは摂政・関白（以下、摂関）の座に就くことのできる家で、中世では近衛家と同家から分派した鷹司家、九条家と同家から分派した二条家・一条家の5つの家から成ります。この5家は当主の摂関就任が家の維持に不可欠でした。

九条の家名の由来は、祖に位置づけられる兼実が京都九条の地に邸宅を構えたことによりです。その兼実の孫である道家には、九条家を継いだ教実のほかには良実、実経、頼経などの男子がいました。このうち良実が二条家、実経が一条家の祖となり、頼経は鎌倉幕府の4代目の将軍となります。また道家の娘は後堀河天皇の中宮となつて四条天皇を産み、教実の娘（道家の孫）は四条天皇の中宮となります。さらに摂関家内でも縁戚を結び全盛期を迎えます。

しかし、仁治3（1242）年に四条天皇が若くして崩御します。その次の天皇に道家は順徳天皇の皇子を推しますが、土御門天皇の皇子（後嵯峨天皇）が即位することとなります。こうした経緯から、道家は後嵯峨

天皇の信頼を得ることができま

せんでした。幕府とのつながりから発言力は残りましたが、建長4（1252）年に鎌倉では頼経と頼嗣父子が政争に敗れて京都に送還されてしまい、道家も陰謀への関与が疑われて失脚してしまいます。失意のなか同年に道家は亡くなりますが、教実は既に亡くなっていたため、その子忠家が跡を継ぎます。当時忠家は右大臣でしたが、道家の死から4ヵ月後に解任されてしまいます。その後20年もの間、官職に就くことができませんでしたが、後嵯峨上皇の崩御後の文永10（1273）年によく復権し摂関の座に就きます。これによりどうにか家を維持することができたのです。忠家が建治元（1275）年に亡くなると子の忠教が跡を継ぎます。忠教も摂関の地位を望みましたが長らく叶いませんでした。正応4（1291）年によく摂関の地位に就きますが、2年後で近衛家にその地位が移ります。この頃の九条家は摂関家という地位を保つので精一杯だったことがうかがえます。

その後、忠教の子師教、師教の弟房実、師教の子道教、道

教の子（養子とする説もあり）経教、経教の子忠基、忠基の子満家と摂関には就き続け、摂関家の地位を保ちますが、道家の頃ほどの権勢を誇ることはありませんでした。



▲九条家の系図（兼実～忠教）

レイクアルスタープラザ・
カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌平日が休館）
開館時間
午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料

泉佐野 レトロ タイムスリップ

泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

③⑩学校シリーズ（10）長南小学校



◀昭和30年ごろの長南小学校。長南小学校は明治6年に創立されました。



◀現在の長南小学校。

泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ（<https://adeac.jp/izumisano-city/top/>）」でも公開中！